～水がささえる豊かな社会～

事業のあらまし

パンフレット
QR コード

独立行政法人 水資源機構（みずしげんきこう）

目　　次

ご挨拶――――――――――――――――――――――――――――――2

１．日本の発展を支える水資源機構――――――――――――――――3
（１）機構事業
（２）水資源開発の現状（シェア率）
（３）水資源機構の役割

２．水資源機構のしごと――――――――――――――――――――――7
（１）水が届くまで
（２）安全で良質な水の提供
（３）洪水被害の防止・軽減と危機管理対応
（４）計画的で的確な施設の整備
（５）環境保全への取組
（６）新技術やDXへの取組
（７）国内外への技術支援
（８）適切な業務運営
（９）地域振興と広報活動
〔最近のトピック〕

３．沿革と組織――――――――――――――――――――――――２１

水資源機構の経営理念

安全で良質な水を安定して安くお届けする

水資源機構は、国民生活・経済にとって特に重要な水に携わる政策実施機関として、安全で良質な水を安定して安くお届けするとともに、洪水の氾濫被害から地域を守り、安全で豊かな社会づくりに貢献します。

気候変動による異常渇水・異常洪水の発生、地震等による大規模災害の発生、施設老朽化の進行など、近年顕在化し増大しつつある水に関するリスクに対し、水のプロ集団の持つ技術力を活かして、的確に課題解決を図ります。

※表紙写真
1段目左から：旧吉野川河口堰、下久保ダム、見沼代用水路（利根導水路）
2段目左から：機器点検（岩屋ダム）、池田ダム、室生ダム
3段目左から：秋ヶ瀬取水堰（利根導水路）、点検放流（矢木沢ダム）、印旛沼
4段目左から：東西分水工（香川用水）、排水ポンプによる水位低下活動（福岡県みやま市）、雄琴沖総合自動観測所（琵琶湖開発）

「水のプロ集団」として国民の期待に応えてまいります

独立行政法人水資源機構
理事長　金尾健司（かなおけんじ）

独立行政法人水資源機構は、その前身である水資源開発公団時代を含む半世紀以上の長きにわたり、我が国の全人口の半分以上の方々の生活に関わる７水系で水資源の開発、管理を行い、首都圏、中部圏、近畿圏などの大都市圏に水を安定的に供給することを通じ、我が国の国民生活の向上と産業経済の発展に寄与してまいりました。

平成15年10月、独立行政法人水資源機構となり、一人一人の役職員が水のプロ集団としての自負をもって、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念の下、社会的使命を果たすべく取り組んでまいりました。

昨今、行政が担うサービスにおいて、デジタル技術やデータを活用した取組が求められており、水資源機構も令和３年９月に「DX推進プロジェクト」を策定いたしました。これにより、あらゆる分野でデジタル技術を活用して国民・利水者への各種サービスの向上を図り、安全で良質な水の供給や、災害に強い安全で豊かな地域づくりに、より一層貢献するとともに、職員のワークライフバランスを実現しつつ、将来に向けて担い手の確保を図ることとしています。

さらに、令和４年４月から、第５期の中期目標期間が始まりました。気候変動への対応、施設の老朽化や耐震化への対応、災害支援、海外インフラ展開など数々の課題に対して、新たに作成した中期計画に基づき、水資源開発施設の適切な管理・建設に努めてまいります。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。